

株式会社 早稲田大学アカデミックソリューション
2025年度 大学業務ソリューションセミナー
～他大学の先進的な取組を共有し大学の未来を拓く～
日本の大学の未来を共に考える2日間

DX創生プラットフォームが 拓く未来 ～人材育成×データ基盤×AI～

2025年12月12日(金)

本間 隼人

学校法人日本女子大学
管理部 システム課

本間 隼人

Homma Hayato

学校法人日本女子大学
管理部 システム課

プロフィール

民間企業、国立大学を経験
日本女子大学入職後、学園DX推進に従事。

- ・勤怠管理システムの導入
- ・図書館システムのクラウド化
- ・学園基幹システムの更改
- ・DX人材育成施策の立案と運営
- ・学園専用生成AI対話プラットフォームの内製開発
- ・学園IR (Institutional Research) 基盤の内製開発 etc..

出身大学

早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科 2013年卒業
早稲田大学 先進理工学研究科 電気・情報生命専攻 2015年修了

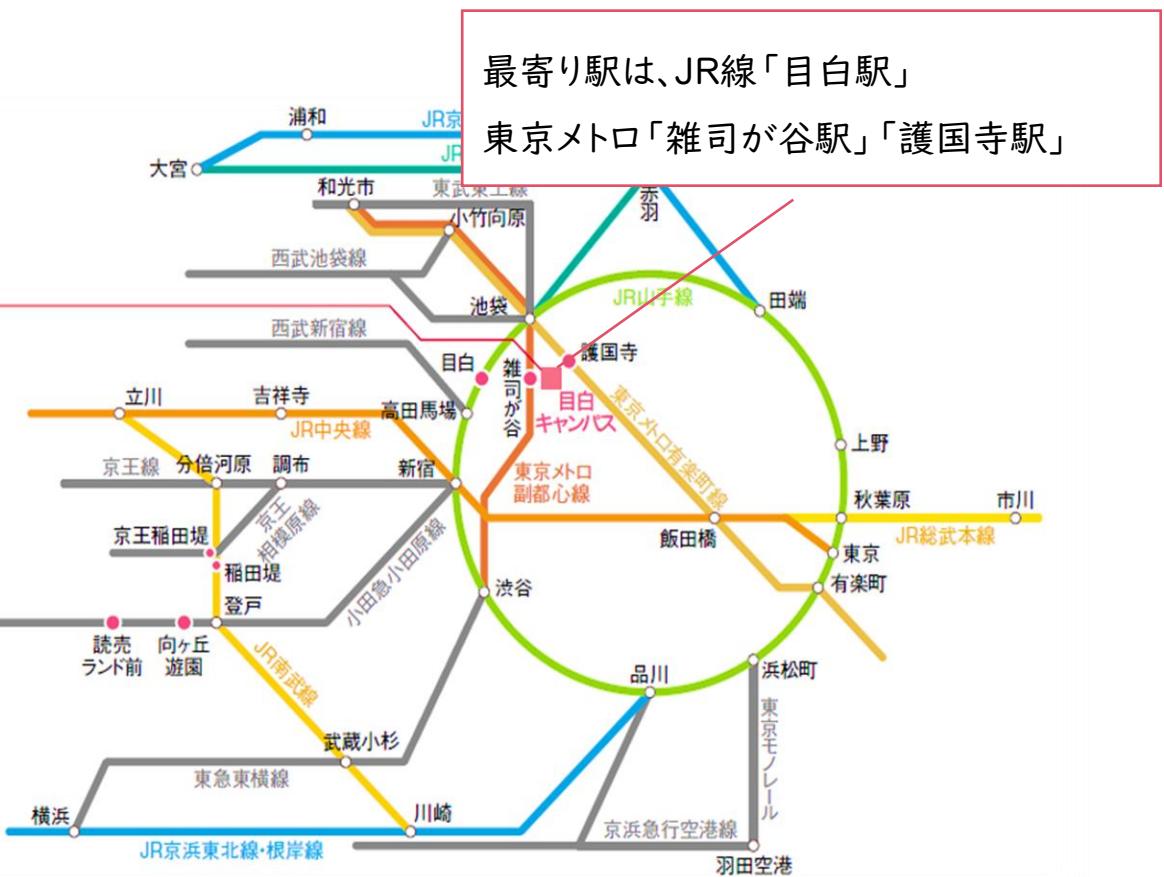


日本女子大学
DX事例



LinkedIn

- 文京区目白台にキャンパスを置く、7学部16学科を擁する女子の総合大学
- 国際文化学部(2023年度)、建築デザイン学部(2024年度)、食科学部(2025年度)を開設、2027年度に経済学部(仮称)を構想中であり、改革を進めている大学

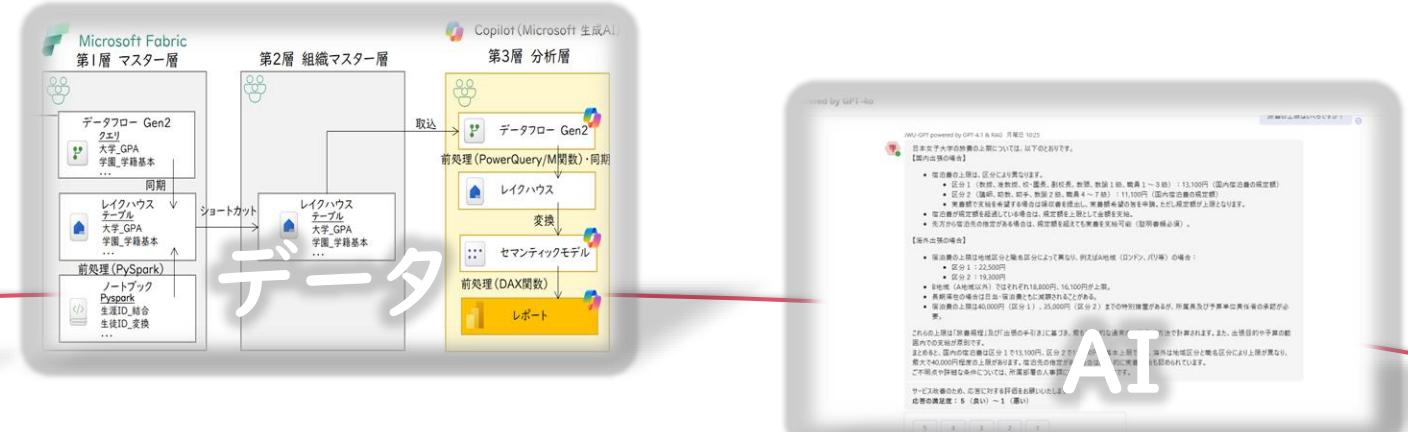


- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、**DX創生プラットフォーム**を構想し、具現化
- (1) 人材 : DXの起点となる改革人材の育成
- (2) データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤
- (3) AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー



DX創生プラットフォーム

- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、**DX創生プラットフォーム**を構想し、具現化
- (1)人材** :DXの起点となる改革人材の育成
- (2)データ** :施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤
- (3)AI** :施策立案と実装を加速させるパートナー



DX創生プラットフォーム

DX人材を育成していますか？

育成して
いる

育成して
いない

育成
したい

育成
したくない

I.I DX人材育成の背景

I.2 DX人材育成の計画

計画①:DXコア人材のスキル整理

計画②:DXコア人材の育成方針

I.3 DX人材育成の実行

実行①:レベル把握

実行②:DXコア人材推薦

実行③:外部研修受講

実行④:実践型問題解決研修

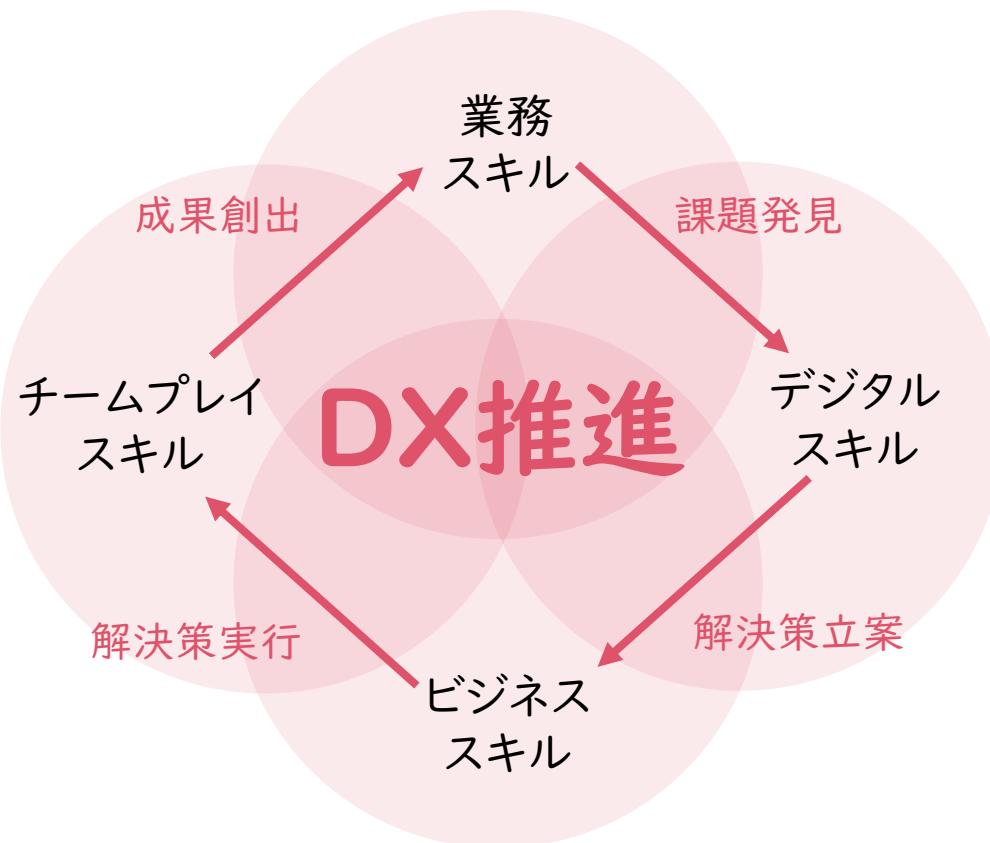
I.4 DX人材育成施策の効果

- 本来あるべきDX推進には、人材へのアプローチが必要不可欠という課題に直面した
- DX推進の要素として人材育成の取組方針を定めた



I.2 DX人材育成の計画①:スキル整理

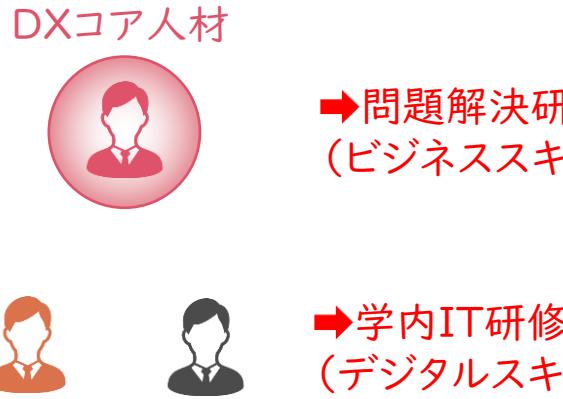
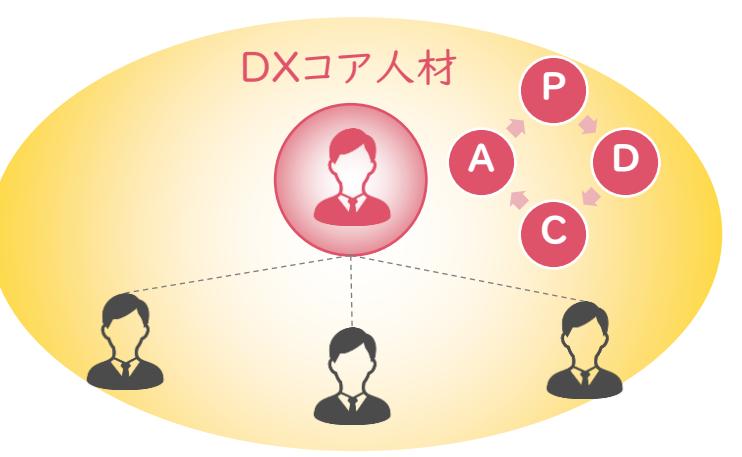
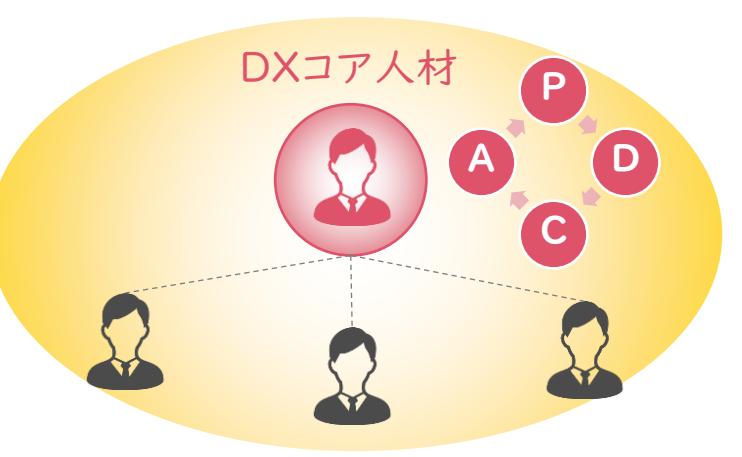
- 経済産業省/情報処理推進機構(IPA)のデジタルスキル標準を活用し、
本学の大学職員のDXコア人材として、DX推進には「①業務スキル」「②デジタルスキル」「③ビジネススキル」「④チームプレイスキル」をバランスよく高めていくことが必要と再定義



スキル	概要
①業務スキル	本学の業務運営に必要なスキル (課題発見に関連するスキル)
②デジタルスキル	ITに関する興味関心や知識 (解決策立案に関連するスキル)
③ビジネススキル	論理的思考、 プレゼンテーション(説明能力/説得力)能力 (解決策実行に関連するスキル)
④チームプレイスキル	利害関係の異なる組織間の折衝や 成果創出に至る計画・分担等のマネジメント力 (成果創出に関連するスキル)

I.2 DX人材育成の計画②：育成方針

- 下記、STEPで人材育成を進める。
 - STEP1:デジタルスキルのレベル把握を実施し、DXコア人材を推薦
 - STEP2:DXコア人材はビジネススキルの研修（問題解決研修）を受講
 - STEP3:実業務の問題に対し問題解決を実践し、1年間の取り組みで成果を創出

STEP①:レベル把握	STEP②:階層別研修	STEP③・④:実践研修
	<p>DXコア人材</p>  <p>→問題解決研修 (ビジネススキル)</p>  <p>→学内IT研修 (デジタルスキル)</p>	
2023年度10月	2024年度6月	2024年度5月～
業務スキル(OJT)	業務スキル(OJT)	業務スキル(OJT)
デジタルスキル	デジタルスキル	デジタルスキル
ビジネススキル	ビジネススキル	ビジネススキル
チームプレイスキル	チームプレイスキル	チームプレイスキル

I.3 DX人材育成の実行①：レベル把握

- DX・ITや改革の親和性の現状把握のため、IT・DXリテラシー診断※を全専任職員が受講
【組織結果】本学は、他企業との相対比較の結果、DXに対するポテンシャルがあると判明
【個人結果】DXコア人材の推薦時の情報として活用

01 IT リテラシー IT リテラシーテスト / IT アセスメント

デジタル化やDX推進に必要なIT関連の理解や活用について出題されます。



ハードウェア

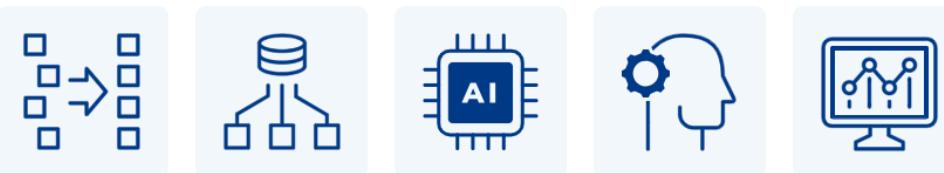
ソフトウェア

ネットワーク/
コミュニケーション

セキュリティー/
コンプライアンス

02 DX リテラシー DX テスト / DX アセスメント

DXリテラシー標準※1を基準とし、DX推進に欠かせない知識の理解や活用について出題されます。



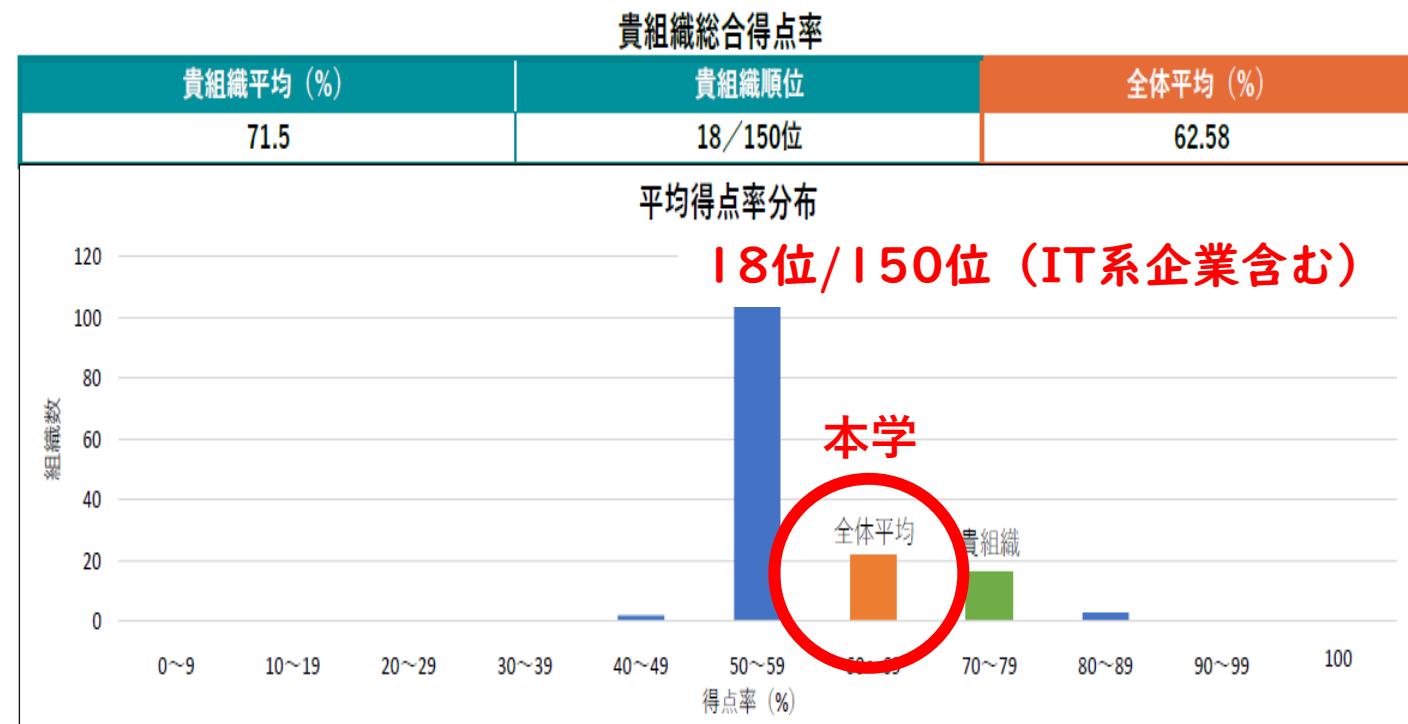
Why (変化)

What (データ)

What (デジタル技術)

マインド

業務特化ITツール
(How 活用方法・事例)



I.3 DX人材育成の実行②: DXコア人材推薦

- 各部から1名程度、部長推薦によりのDXコア人材を選抜
- 計11名がDXコア人材としてプロジェクトに参画

部	課	イニシャル
法人企画部	広報課	KTさん
総務部	総務課	MKさん
財務部	経理課	KTさん
管理部	システム課	MYさん
入学部	入試課	MHさん
学務部	研究支援課	CMさん
学生生活部	学生支援課	KNさん
	国際交流課	CIさん
通信教育・生涯学習事務部	通信教育課	KMさん
	図書館課	NKさん
図書館事務部	成瀬記念館事務室	KKさん



I.3 DX人材育成の実行③：外部研修受講

- ・DXコア人材は、問題解決フレームワークに関する外部研修を受講
- ・将来的な改革プロジェクトを進めるうえでの共通理解としても重要と考える



問題の設定

「解決するべき問題は何か？」を検討する段階

問題点の特定

「どこに問題が集中しているか？」の観点で問題点を絞り込む段階

原因の究明

特定した問題点を引き起こす「真因（真の原因）」を究明する段階

解決策の立案

真因を解消する打ち手を洗い出し、絞りこみをする段階

I.3 DX人材育成の実行④: 実践型問題解決研修

- ・ DXコア人材は、研修受講後、業務上で課題を見つけ、問題解決に取り組む
- ・ 実践的な問題解決能力を醸成を狙うとともに、各種の報告会を設定し、論理的な説明能力および成果創出のためのモチベーションを保つ工夫
- ・ 報告会に管理職も参加することで、学園の風土を変革に寄与することを想定

年度	月	内容
2024 年度 ・ 2025 年度	5	問題解決研修受講
	6	実践研修
	7	テーマ報告会
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	中間報告会
	1	
	2	
	3	
翌年度	4	
	5	成果報告会



※2025年度継続中、2026年度継続予定

- ・本学のDXコア人材育成のスキームでは、次の3つのメリットを同時に享受できる
人材の改革:問題解決能力の開発による人材の改革
実務の改革:実践側問題解決研修により実務の改革施策が創出
組織の改革:各種報告会にて取組を管理職を含めた全職員への共有による組織変革

人材の改革



DXコア人材
育成人数

16名

全職員の10%
(約160名)

実務の改革



DXコア人材
業務改革件数

累計 21 件

各部で業務改革の
自律的な実行

組織の改革



学内
報告回数

累計 53 回

全職員を参加対象とした
報告会を継続



事例
外部公開件数

累計 15 件

2025年度
2023年度比 5倍

I-4. DX人材育成施策の効果



日本女子大学

DXコア人材の取り組み一例



広報課

ブランディング・広報活動の強化

理事長による方針説明
インナーブランディング施策の推進



総務課

規程運用にかかる業務効率化

規定のデジタル化
ワークフローのオンライン化



経理課

学費納入にかかる問合せの削減

専用サイト導入検討
案内メール改善による問合せ削減



システム課

柔軟なコンピュータ演習室の展開

PC配置最適化
BYOD/VDI導入検討



入試課

入試出願に関する問合せの削減

動画・Webサイト案内強化
フォーム改善による対応効率化



研究支援課

研究費執行の不備削減

Amazonビジネス導入による
物品購入フロー改善・不備削減



学生支援課

学内奨学金の見直し

データ分析に基づく制度見直し
情報発信の強化



国際交流課

交換留学生の出願手続き効率化

FormsとPowerAutomateを
活用した出願プロセスの自動化



通信教育課

教職業務の活性化

マニュアル整備
AIチャットボット検証による業務サポート



図書館課

図書延滞率の抑制

Web貸出更新の周知強化
通知メール改善による延滞抑制

2.データ



- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、**DX創生プラットフォーム**を構想し、具現化
- (1)人材 :DXの起点となる改革人材の育成
- (2)データ :施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤**
- (3)AI :施策立案と実装を加速させるパートナー



DX創生プラットフォーム

データ分析はどうやってますか？

Excel等

データ
分析基盤

BI
ツール

2.1 学園データ統合の方針

2.2 データ分析の現状と課題

2.3 学園データ統合のスケジュール

【補足】Microsoft Fabricとは？

2.4 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴

【デモ①】データ取得と生涯IDの付与

【デモ②】セキュリティ権限

【デモ③】分析レポート

2.5 今後の展望

2. | 学園データ統合の方針



- 日本女子大学を含む本学園は、幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・大学院までの一貫教育体制を擁する。
- 本学園の目指す学園IRは、附属校園を含む全教育段階のデータを一貫管理・分析を可能とする「フル・エンロールメントマネジメント」である。



日本女子大学
附属豊明幼稚園



日本女子大学
附属豊明小学校



日本女子大学
附属中学校



日本女子大学
附属高等学校



学校
法人
日本女子大学



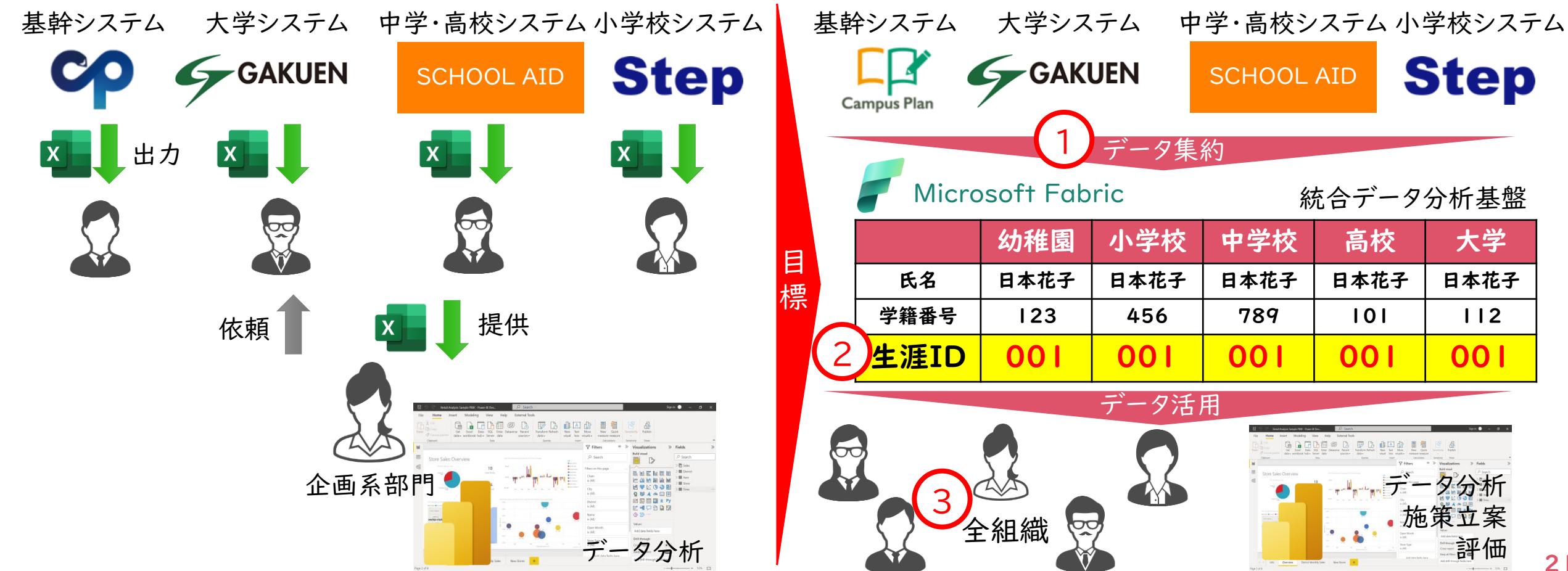
日本女子大学大学院

フル・エンロールメントマネジメント



2.2データ分析の現状と課題

- ・目指す学園IRの実現のために次の3つの課題を整理した。
- 課題①: 統合データ分析基盤へのデータ連携による円滑なデータ共有
課題②: 生涯IDによる学生識別の一貫性確保
課題③: 自立分散的なデータ駆動組織の強化



2.3学園データ統合プロジェクトのスケジュール

- 2024年度1月より検討を開始し、2025年6月～7月の2ヶ月間で内製開発によるPoCを実施した。
- PoCの結果より、本運用を判断、内製開発で運用上問題がないことを確認した。
- 現在は、本番環境を構築が完了した。



【補足】Microsoft Fabricとは？

データ分析に至る工程の必要な機能が網羅された

SaaS型 All In One データ基盤ソリューション

Microsoft Fabricの正式説明

- ・ All In One データ基盤ソリューション
- ・ OneLakeにあるDelta Parquet形式のデータをアナリティクス・ワークフロー全てが参照
- ・ SaaSベースの統合ソリューション
- ・ SaaSのメリットはすぐに始められること

Power BIを成功事例としたもの

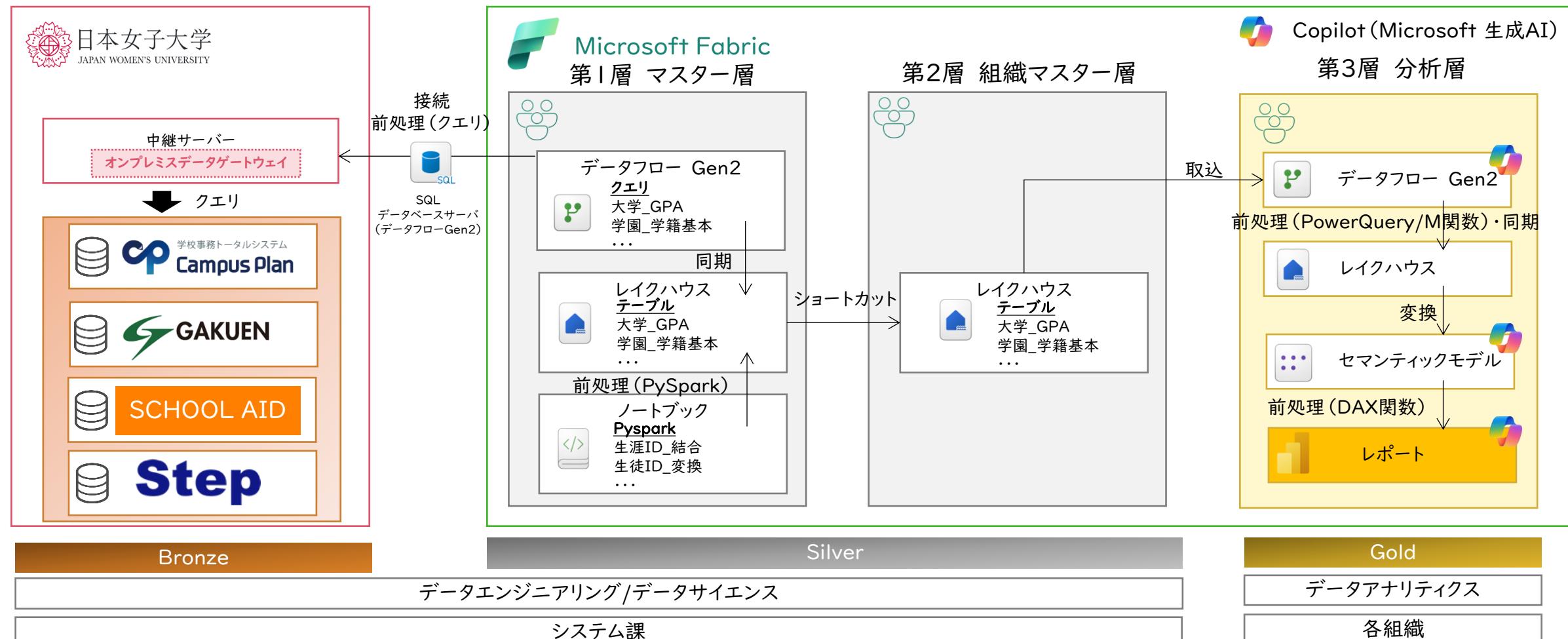


統一されたデータ基盤
OneLake

永続的なデータガバナンスとセキュリティ
Microsoft Purview

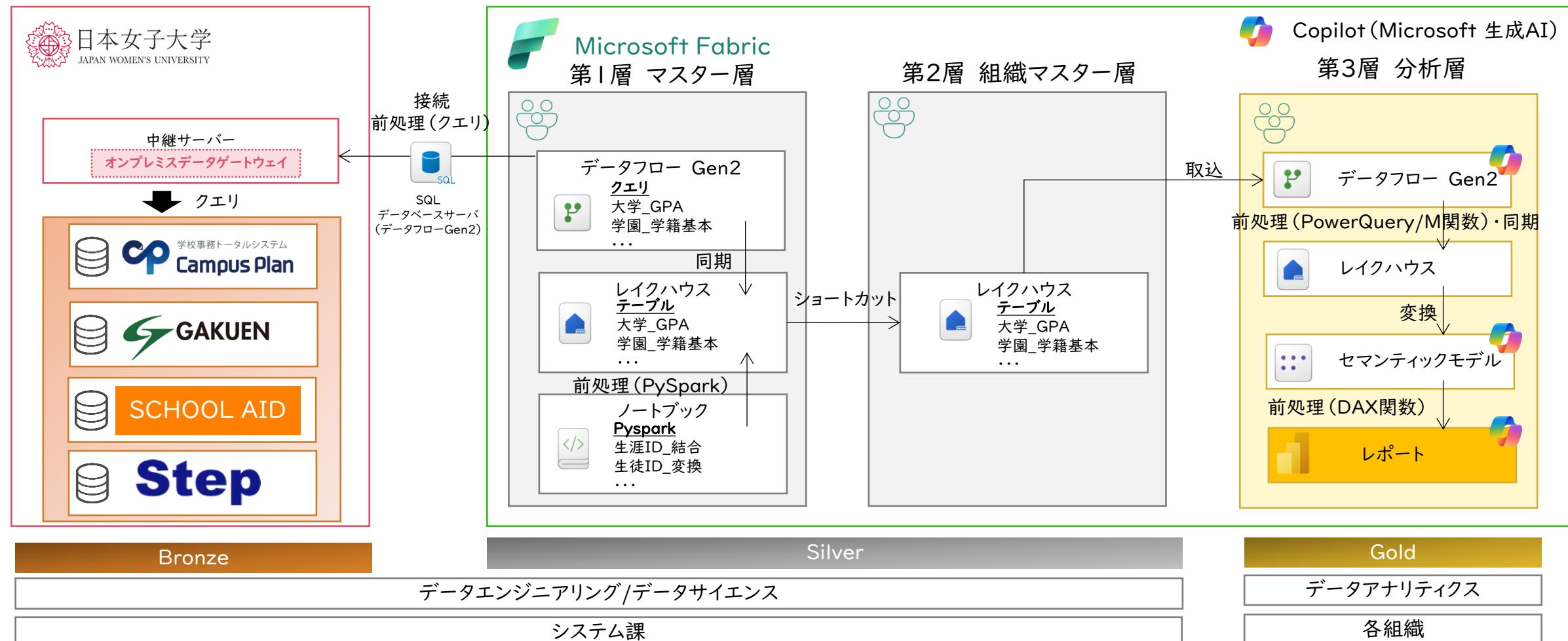
2.4 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴

- 学園IR基盤(以下、JWU-IR)のMicrosoft Fabricの環境は権限・運用プロセスから**3階層構造**を採用。
 - 第1層 マスター層 : SQLを発行し、各システムのデータを保持
 - 第2層 組織マスター層:各組織で分析に必要なデータをマスター層から同期
 - 第3層 分析層 :データ分析者が分析を行う領域



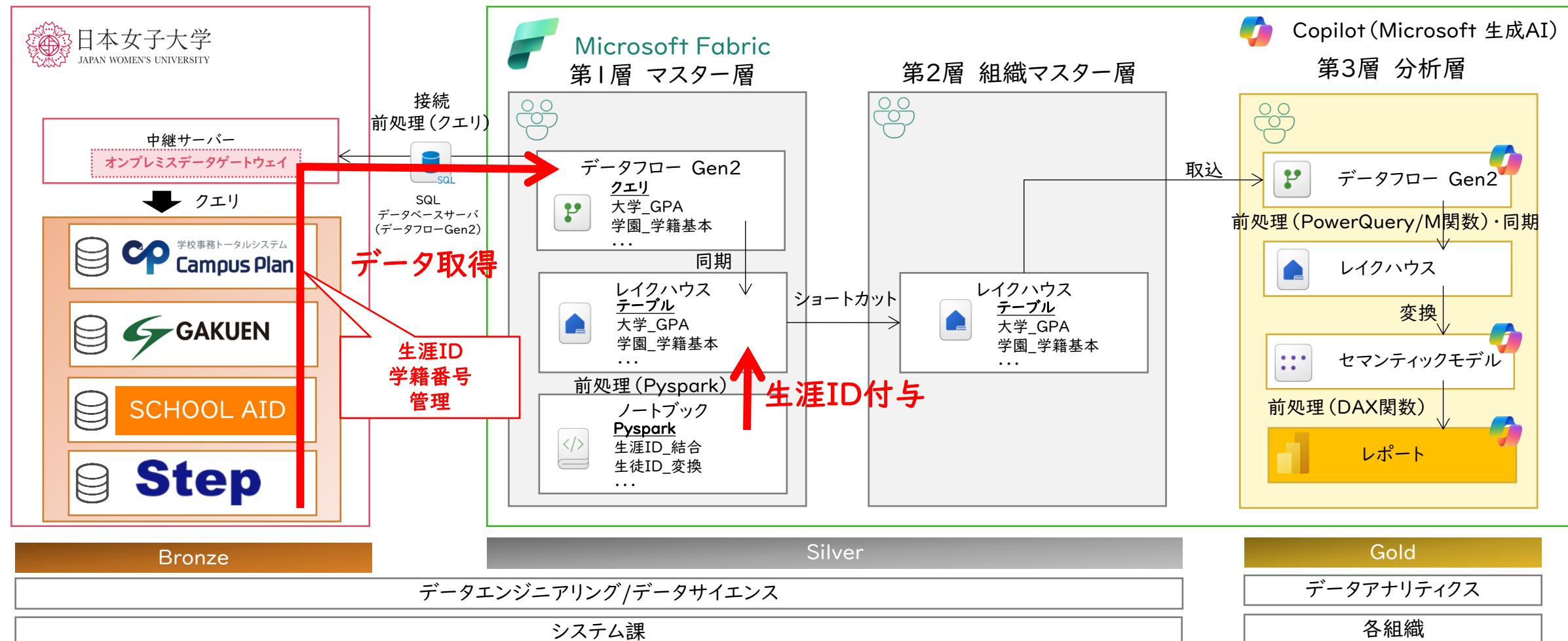
2.4 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴

- JWU-IRが3階層の構造を持つことによって、次の特徴を持つ
- 特徴①: Microsoft Fabricに学園の各種システムのデータが自動的に連携し、生涯IDを付与
- 特徴②: セキュリティ及び権限管理をMicrosoft Fabricで3層構造のシステムで実現、安全かつ円滑にデータ共有
- 特徴③: データ分析のベストプラクティスに準拠により、分析者が目的に沿ったレポート作成可能

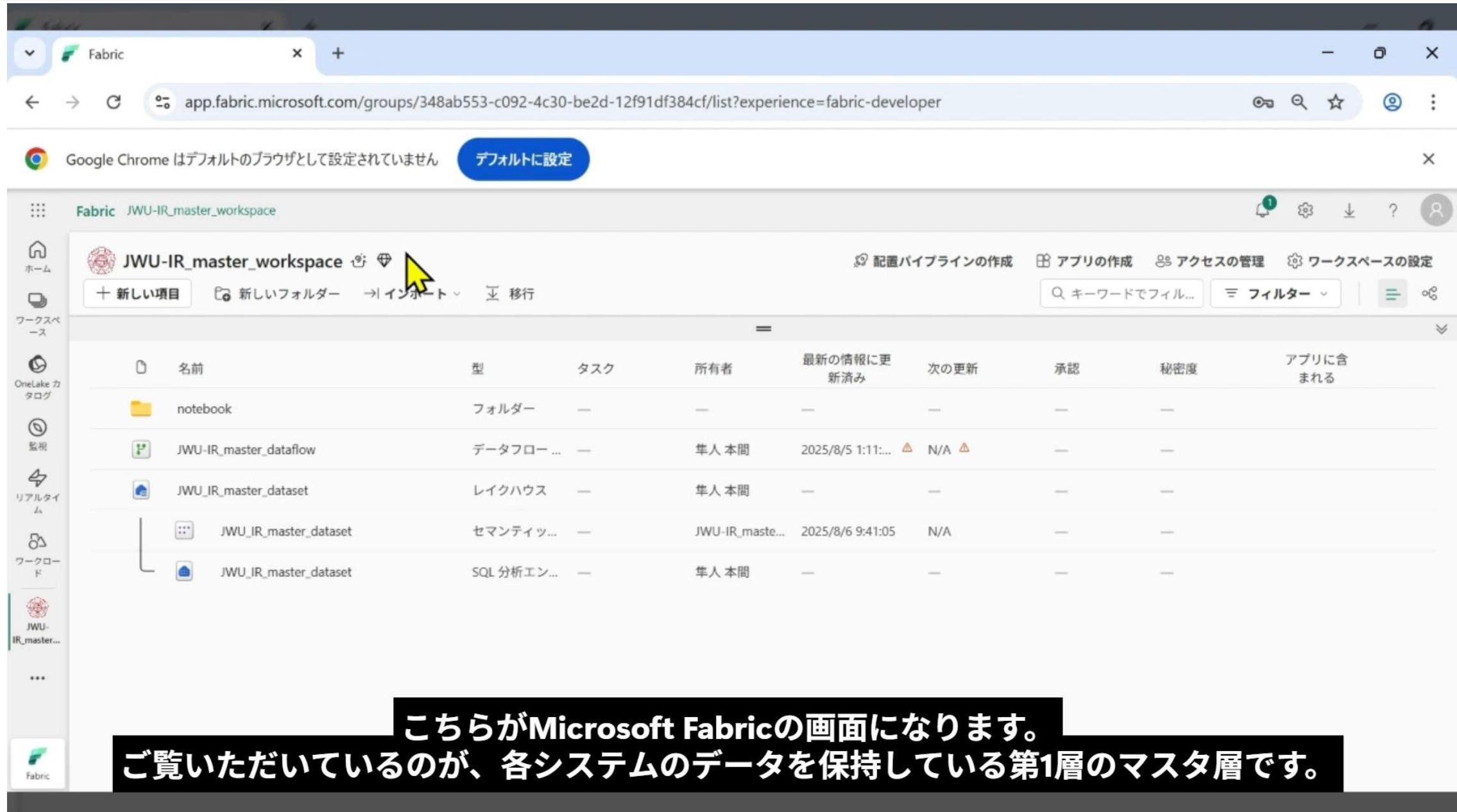


2.4 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴①

- Microsoft Fabricに学園の各種システムのデータが自動的に連携及び更新し、生涯IDが付与



【デモ①】データ取得と生涯IDの付与



The screenshot shows the Microsoft Fabric web interface. The title bar says "Fabric" and the address bar shows the URL: "app.fabric.microsoft.com/groups/348ab553-c092-4c30-be2d-12f91df384cf/list?experience=fabric-developer". A message at the top says "Google Chrome はデフォルトのブラウザとして設定されていません" with a "デフォルトに設定" button. The main area is titled "Fabric JWU-IR_master_workspace". It features a sidebar with icons for Home, Workspaces, OneLake Catalog, Monitoring, Realtime, Workflows, and JWU-IR_master. The main content area displays a list of data assets:

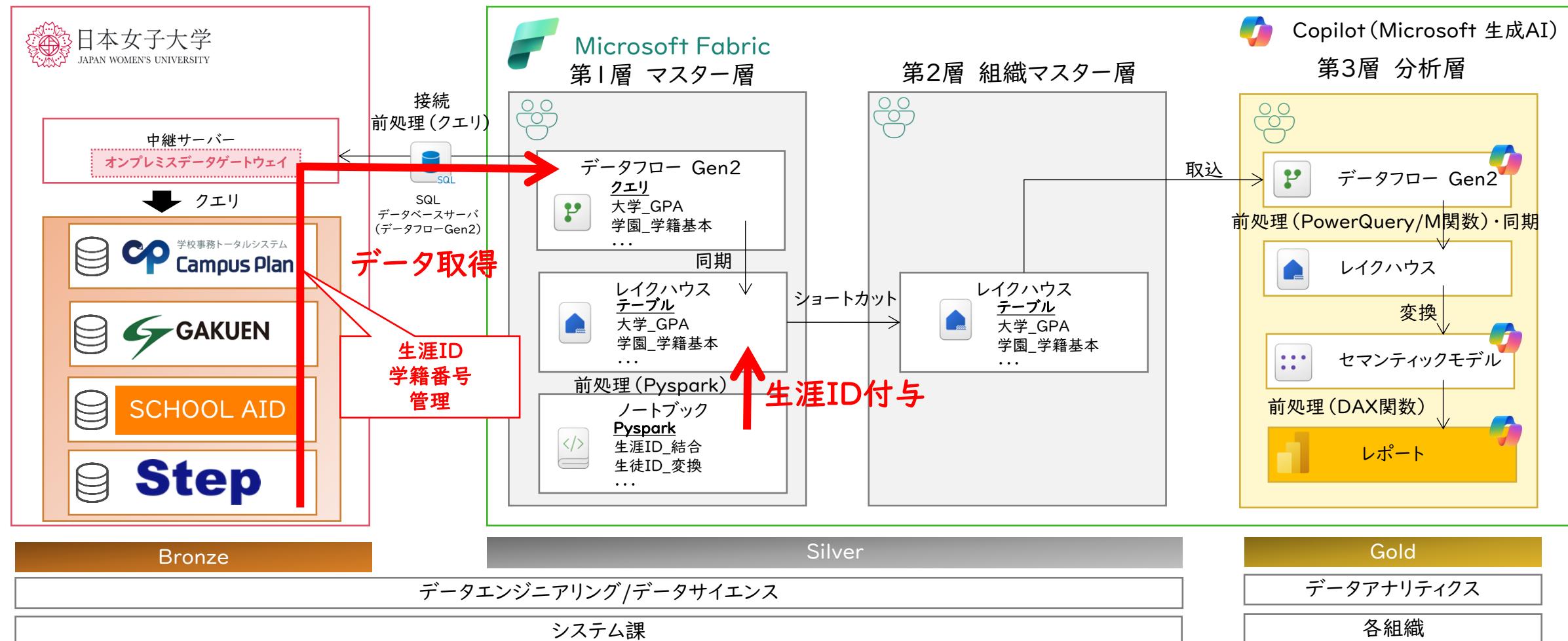
名前	型	タスク	所有者	最新の情報に更新済み	次の更新	承認	秘密度	アプリに含まれる
notebook	フォルダー	—	—	—	—	—	—	—
JWU-IR_master_dataflow	データフロー	—	隼人 本間	2025/8/5 1:11:...	N/A	—	—	—
JWU_IR_master_dataset	レイクハウス	—	隼人 本間	—	—	—	—	—
JWU_IR_master_dataset	セマンティック	—	JWU-IR_maste...	2025/8/6 9:41:05	N/A	—	—	—
JWU_IR_master_dataset	SQL 分析エンジン	—	隼人 本間	—	—	—	—	—

At the top right, there are buttons for "配置パイプラインの作成" (Create Pipeline), "アプリの作成" (Create App), "アクセスの管理" (Access Management), and "ワークスペースの設定" (Workspace Settings). Below the table are search and filter options. A yellow arrow points to the "→ インポート" (Import) button in the top navigation bar.

At the bottom, a callout box contains the text: "こちらがMicrosoft Fabricの画面になります。ご覧いただいているのが、各システムのデータを保持している第1層のマスタ層です。"

2.4 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴①

- Microsoft Fabricに学園の各種システムのデータが自動的に連携及び更新し、生涯IDが付与



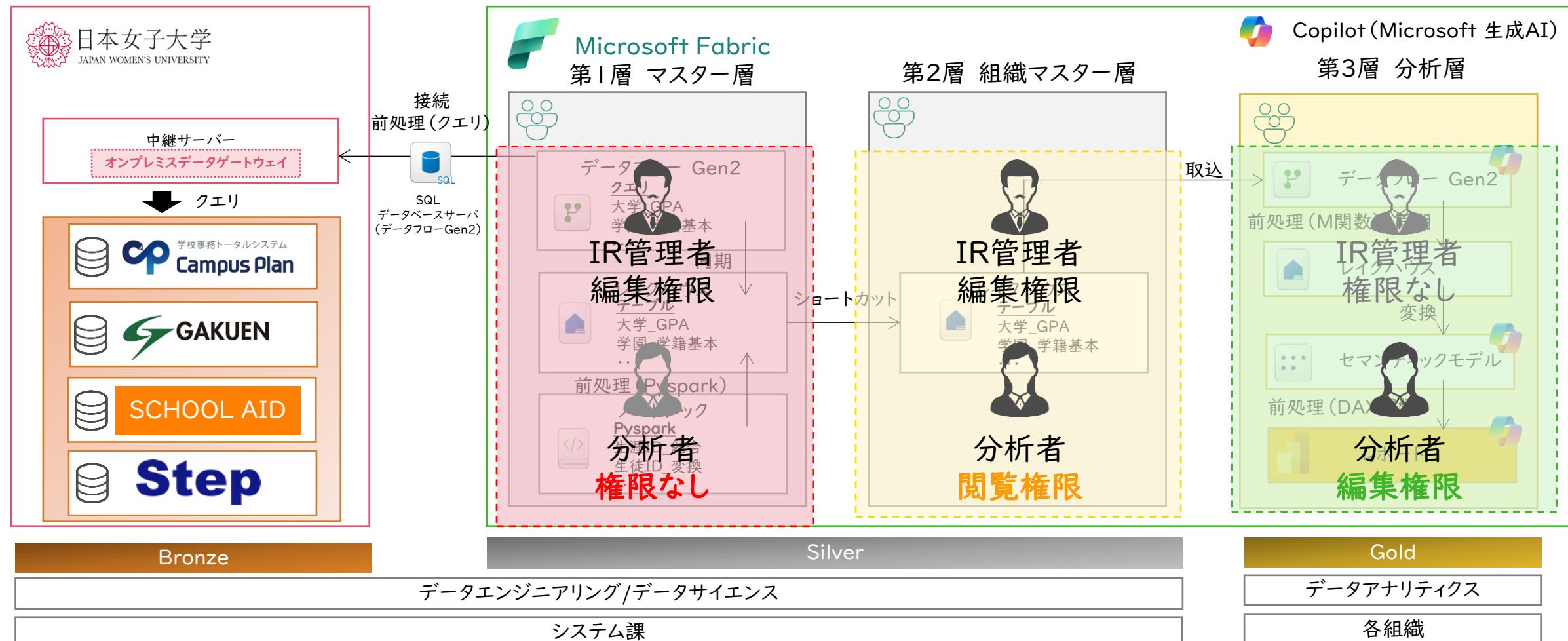
2.4 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴②

- セキュリティ及び権限管理を3層構造に対して実施、安全かつ円滑にデータ共有

第1層 マスター層 : IR管理者アカウントのみが編集・閲覧可能

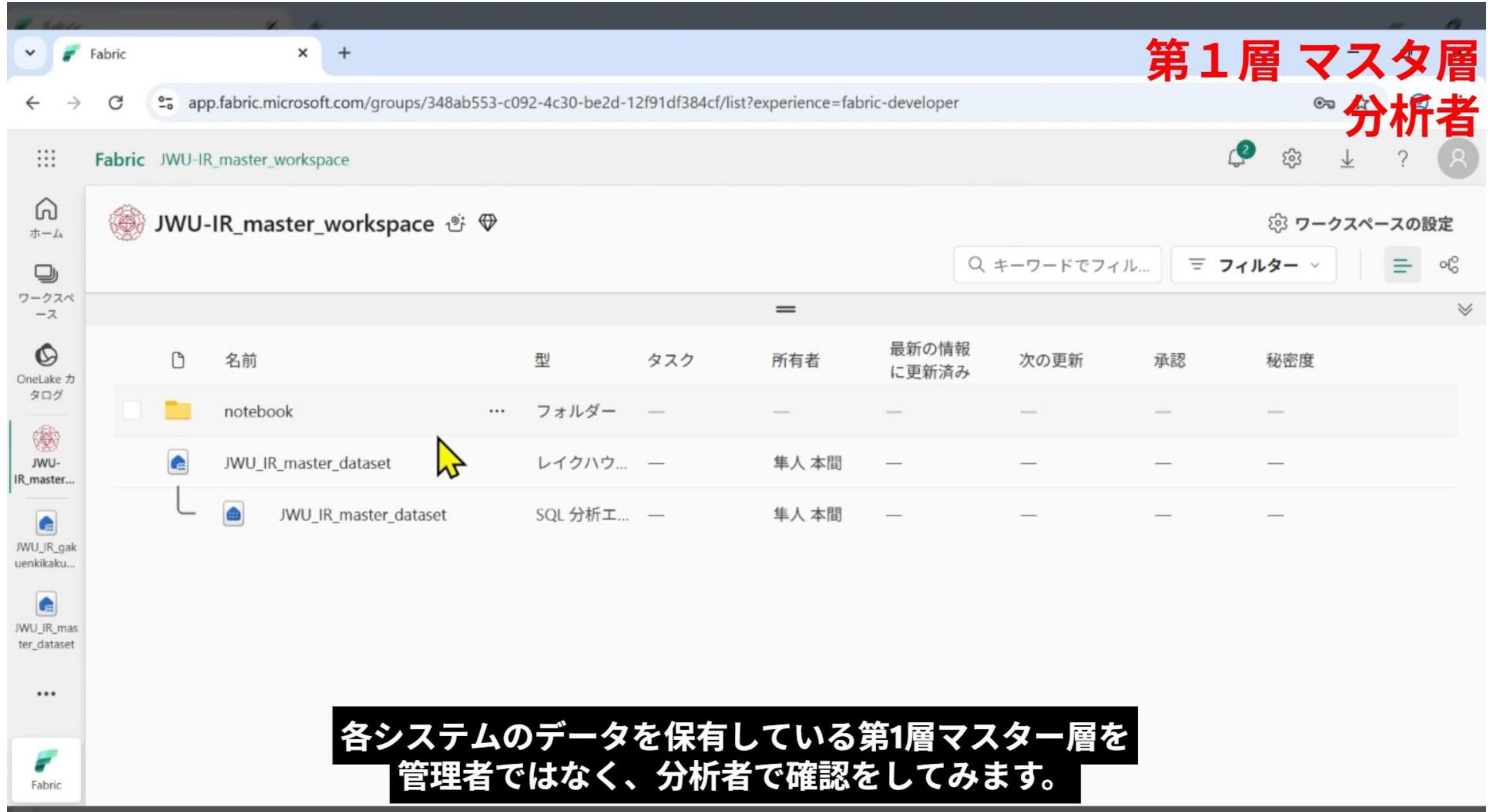
第2層 組織マスター層: 各組織毎に必要なデータのみ同期、閲覧権限のみ付与

第3層 分析層 : 自由に分析レポートを作成可能



【デモ②】セキュリティ権限

第1層 マスター層
分析者



	名前	型	タスク	所有者	最新の情報に更新済み	次の更新	承認	秘密度
<input type="checkbox"/>	notebook	... フォルダー	—	—	—	—	—	—
<input type="checkbox"/>	JWU_IR_master_dataset	レイクハウ...	—	隼人 本間	—	—	—	—
<input type="checkbox"/>	JWU_IR_master_dataset	SQL 分析工...	—	隼人 本間	—	—	—	—

各システムのデータを保有している第1層マスター層を
管理者ではなく、分析者で確認をしてみます。

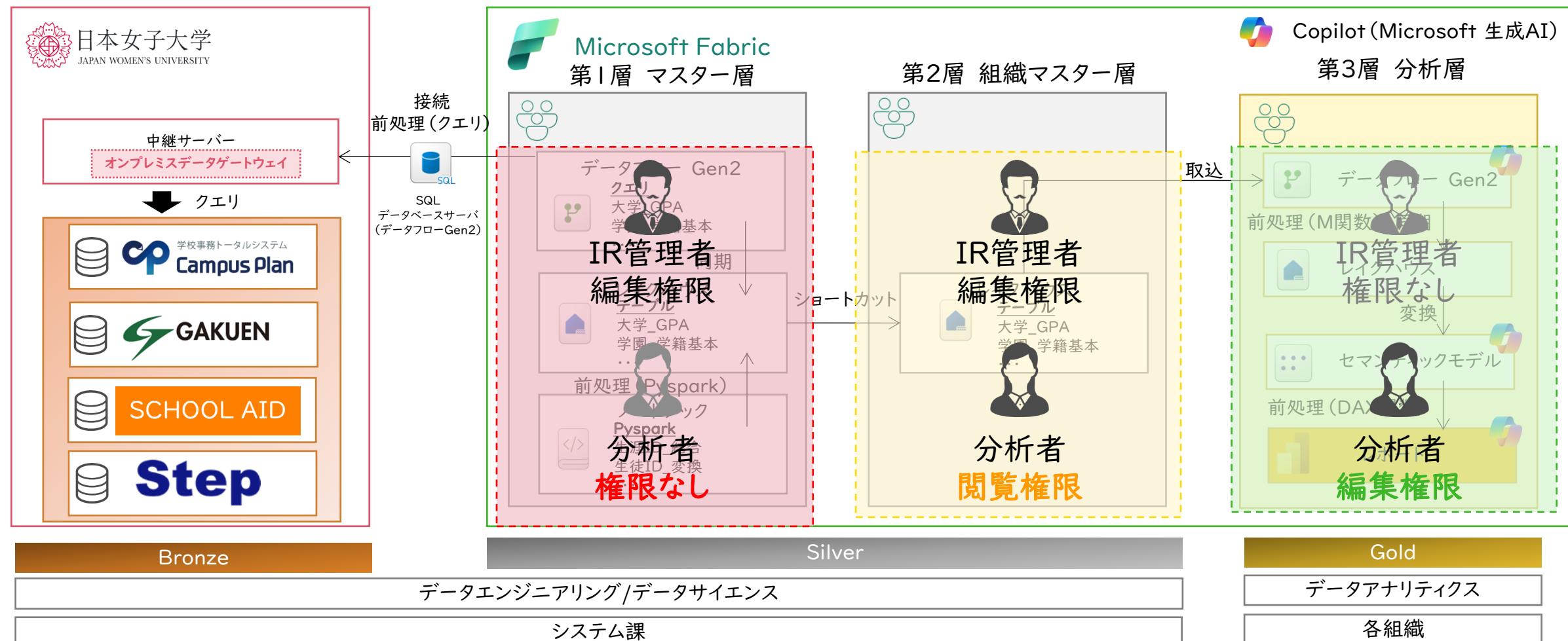
2-3. 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴②

- セキュリティ及び権限管理を3層構造に対して実施、安全かつ円滑にデータ共有

第1層 マスター層 : IR管理者アカウントのみが編集・閲覧可能

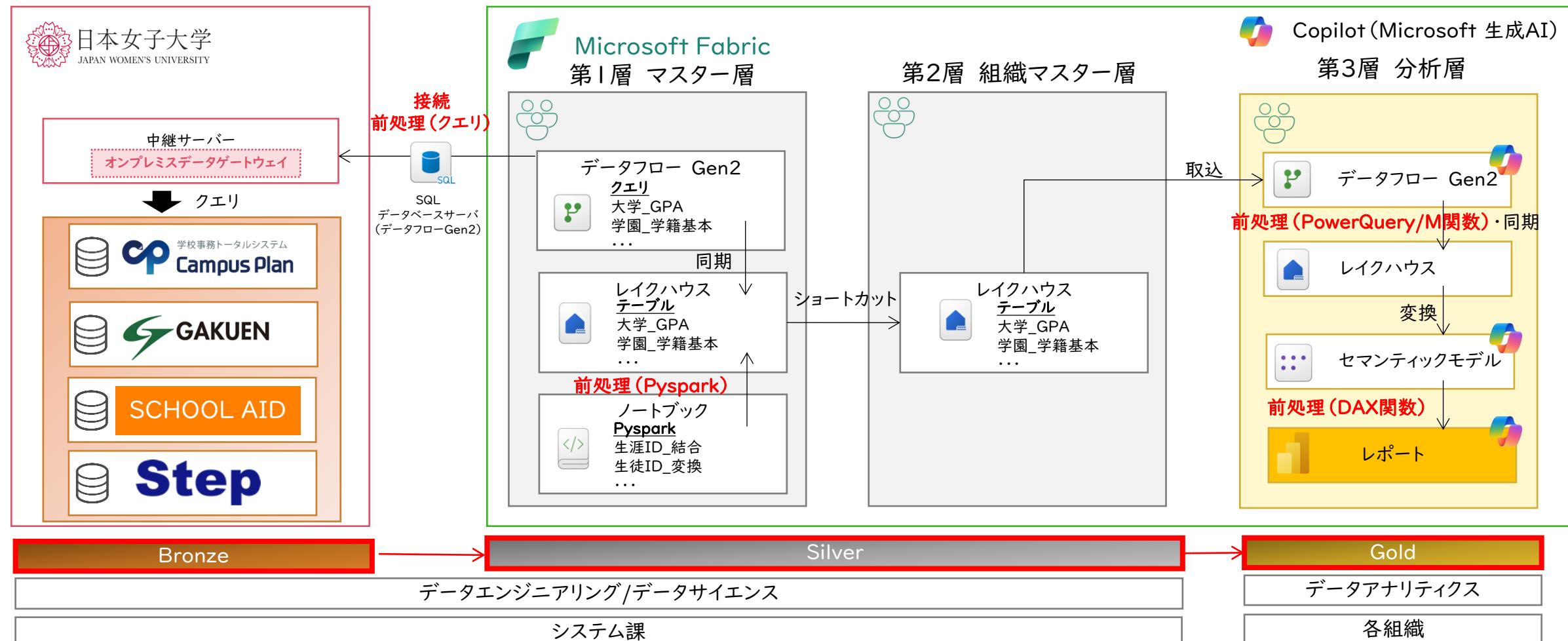
第2層 組織マスター層: 各組織毎に必要なデータのみ同期、閲覧権限のみ付与

第3層 分析層 : 自由に分析レポートを作成可能



2-3. 学園データ統合分析基盤 (JWU-IR) の特徴③

- データ分析のベストプラクティス(メダリオンアーキテクチャ)に準拠により、**分析者が目的に沿ったレポート作成可能**
 - シルバー(クリーンデータ)変換: プログラムベースでシステム部門が対応
 - ゴールド(分析データ)変換: GUIと関数ベースと「生成AI」で分析者が対応



【デモ③】分析レポート

- 高校の入学時の入試形態と大学でのGPAの傾向分析を一例として取り上げる。
- 「高校システム」から「高校入試形態テーブル」を「大学システム」から「大学GPA」を取得し、「生涯ID」で各テーブル間を紐づけを実施し、分析が可能となる。



第2層 組織マスター層

高校システム ➔ 高校入試形態テーブル

生涯ID	学籍番号(高校)	高校入試形態
11111111	31700001	一般
222222222	31700002	内部
333333333	31700003	推薦
...

大学システム ➔ 大学GPAテーブル

生涯ID	学籍番号(大学)	GPA
11111111	22001001	2.8
222222222	22001002	3.0
333333333	22001003	3.2
...

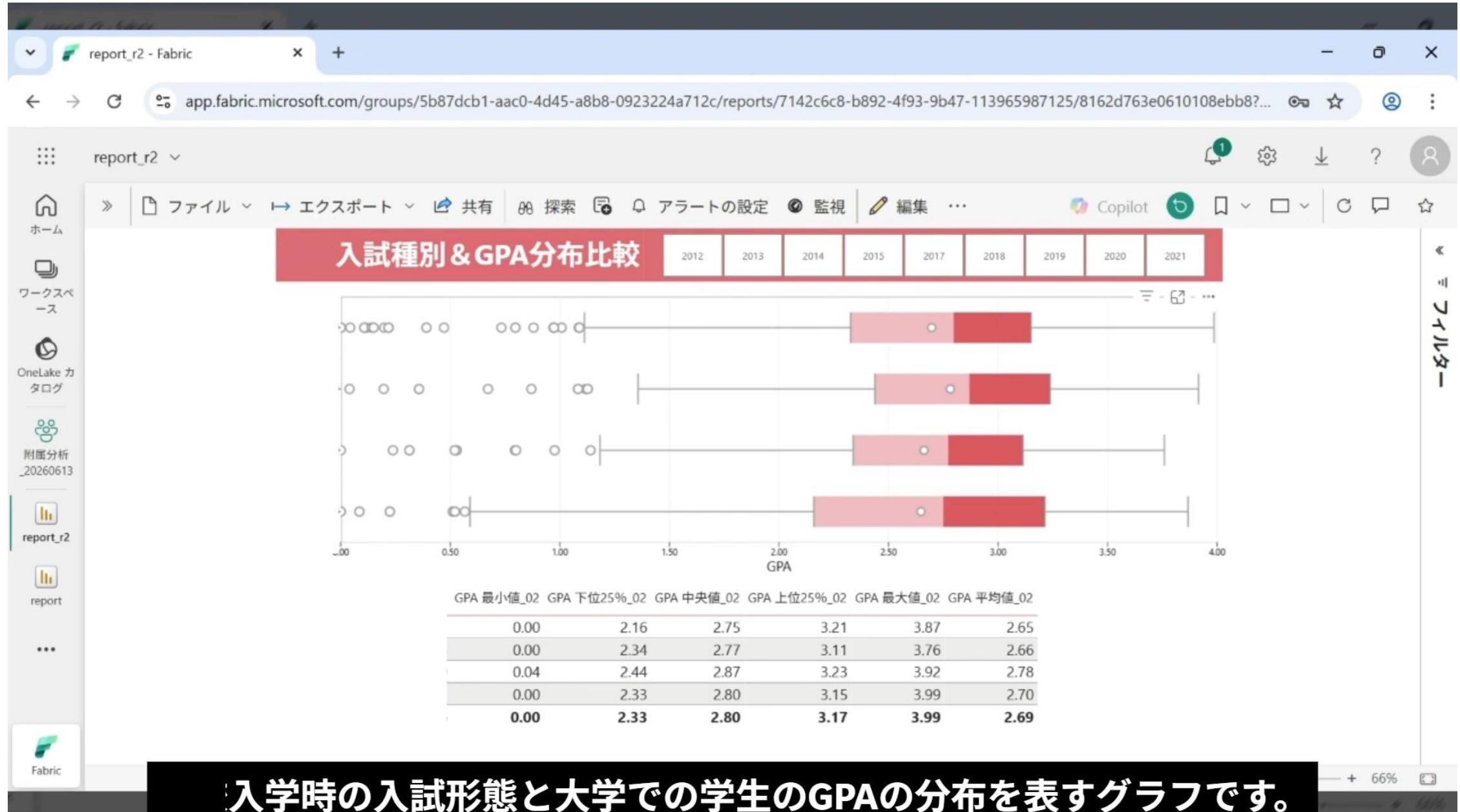


第3層 分析層

大学GPA+高校入試形態テーブル

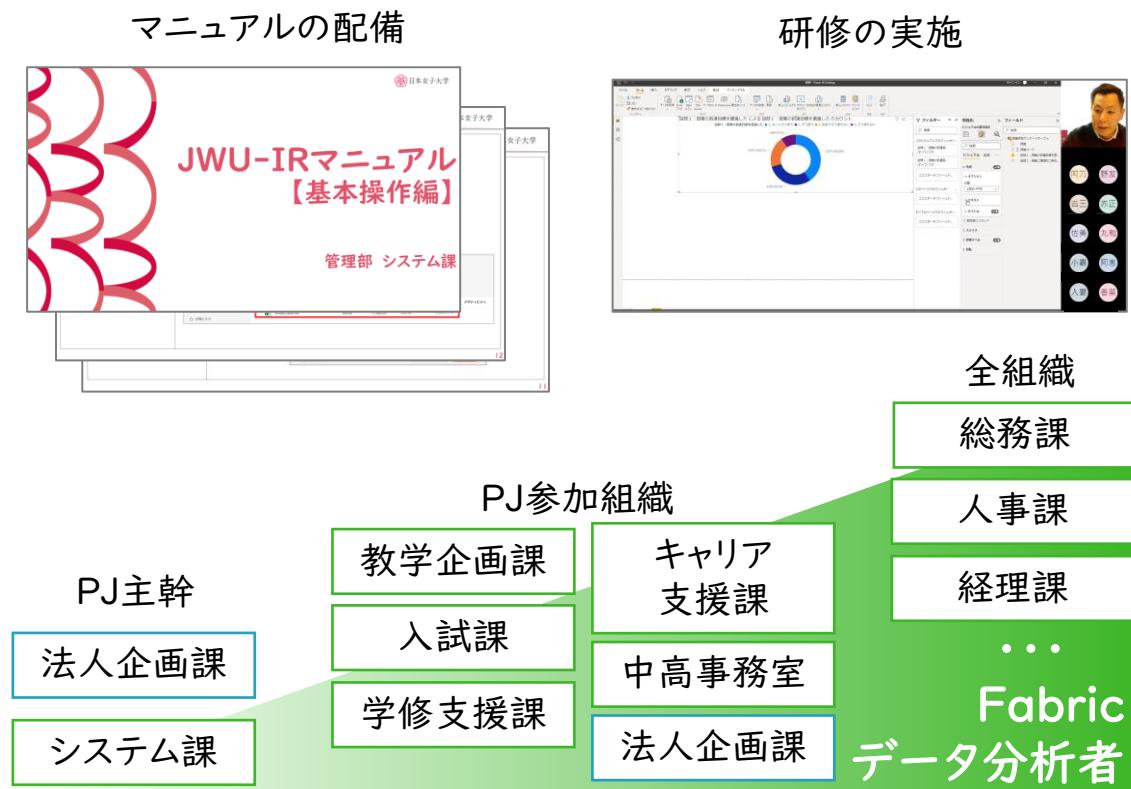
生涯ID	学籍番号 (大学)	学籍番号 (高校)	高校入試形態	GPA
11111111	22001001	31700001	一般	2.8
222222222	22001002	31700002	内部	3.0
333333333	22001003	31700003	推薦	3.2
...

【デモ③】分析レポート



- ・学園データ統合分析基盤をフル活用し、今後、学園IRの更なる推進に取り組む
- ・取組①: Microsoft Fabricによるデータ分析の浸透
- ・取組②: Microsoft Fabricを活用した戦略立案事例の拡充

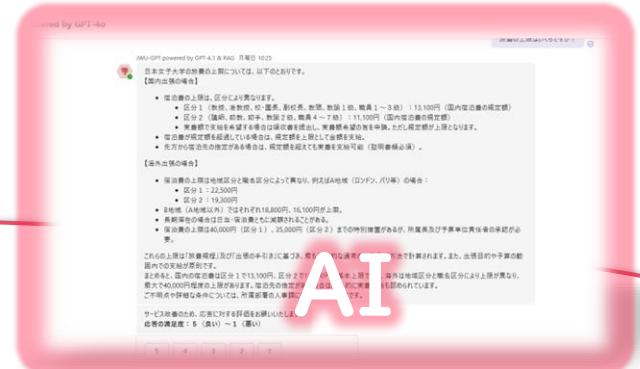
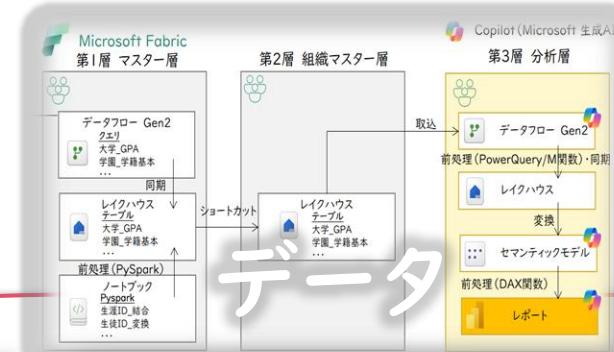
<Microsoft Fabricによるデータ分析の浸透>



<Microsoft Fabricを活用した戦略立案事例の拡充>



- 日本女子大学では、更なるDX推進のため、**DX創生プラットフォーム**を構想し、具現化
 - (1) 人材 : DXの起点となる改革人材の育成
 - (2) データ : 施策の根拠と効果を定量的に可視化・検証する共通基盤
 - (3) AI : 施策立案と実装を加速させるパートナー**



DX創生プラットフォーム

生成AIをどう使ってますか？

情報検索
コーディング
アイディア出し
等

処理代行

学内情報
問い合わせ

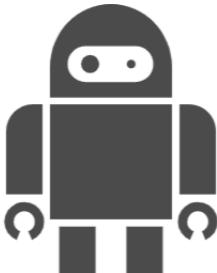
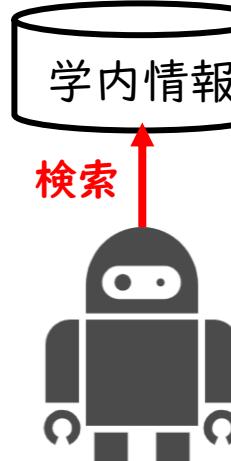
3. I 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT)

- 導入背景
- 概要
- 学内情報連携
- 利用実績

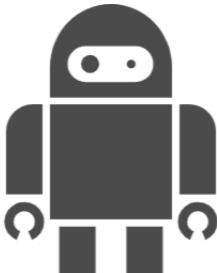
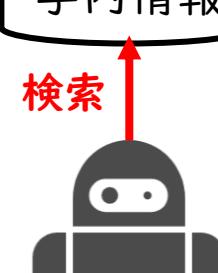
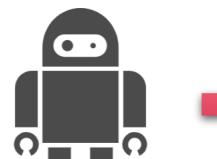
3.2 生成AIと学内データ連携

3.3 データ分析業務におけるAIエージェント

- 生成AIを取り巻く環境は進展しており、現在は、生成AIと学内情報の連携から進み、データ連携、処理の代行(AIエージェント)が実業務に適用が検討されている状況
- 本学では、学内情報のみではなく、統合データ基盤が生成AIと連携しており、データ分析業務においては、AIエージェント機能を活用

2023年度	2024年度	2025年度
フェーズ1 生成AI	フェーズ2 生成AI + 学内情報 (RAG:検索拡張生成)	フェーズ3 生成AI + データ 生成AI + 処理代行(AIエージェント)
 <div> <p>生成AIとは?</p> <p>生成AI(生成系人工知能)とは、人間のようにテキスト・画像・音声・映像・プログラムなどのコンテンツを自動で生成するAI(人工知能)のことです。従来のAIが…。</p> </div>	 <div> <p>学内情報</p> <p>検索</p> <p>健康診断は何月ですか?</p> <p>日本女子大学の健康診断は、毎年4月に実施されています。学生定期健康診断は、学校保健安全法に基づき、……</p> </div>	 <div> <p>学内データ</p> <p>+</p> <p>洞察</p> </div>
賢い人	社内の賢い人	社内の賢くて、仕事のできる人

- 生成AIを取り巻く環境は進展しており、現在は、生成AIと学内情報の連携から進み、データ連携、処理の代行(AIエージェント)が実業務に適用が検討されている状況
- 本学では、学内情報のみではなく、統合データ基盤が生成AIと連携しており、データ分析業務においては、AIエージェント機能を活用

2023年度	2024年度	2025年度
<p>フェーズ1 生成AI</p>  <p>生成AIとは? 生成AI(生成系人工知能)とは、人間のようにテキスト・画像・音声・映像・プログラムなどのコンテンツを自動で生成するAI(人工知能)のことです。従来のAIが…。</p>	<p>フェーズ2 生成AI + 学内情報 (RAG:検索拡張生成)</p>  <p>学内情報 検索</p> <p>健康診断は何月ですか? 日本女子大学の健康診断は、毎年4月に実施されています。学生定期健康診断は、学校保健安全法に基づき、……</p>	<p>フェーズ3 生成AI + データ 生成AI + 処理代行(AIエージェント)</p>  <p>学内データ +  →洞察</p> <p>打ち合わせ予定確保をお願い 空きスケジュールを確認し、確保しました。</p>
賢い人	社内の賢い人	社内の賢くて、仕事のできる人

【目的】全教職員の生成AI利活用環境を整備 (2023年度)

【課題①】利用コスト

全教職員 (約1,400名) に生成AIサービスを利用させると **非常に高額**

⇒ **約5,400万円/年** (=240ドル/人・年※×約1,400人×約150円/ドル)

※OpenAI社 ChatGPT Plusの場合 (2024年度8時点)

【課題②】ユーザー管理

検討当初、高精度な生成AIサービスの利用は、個人契約のみ

システム管理者側での **ユーザーの権限や機能制限が不可能**

【課題③】意図しない情報流出

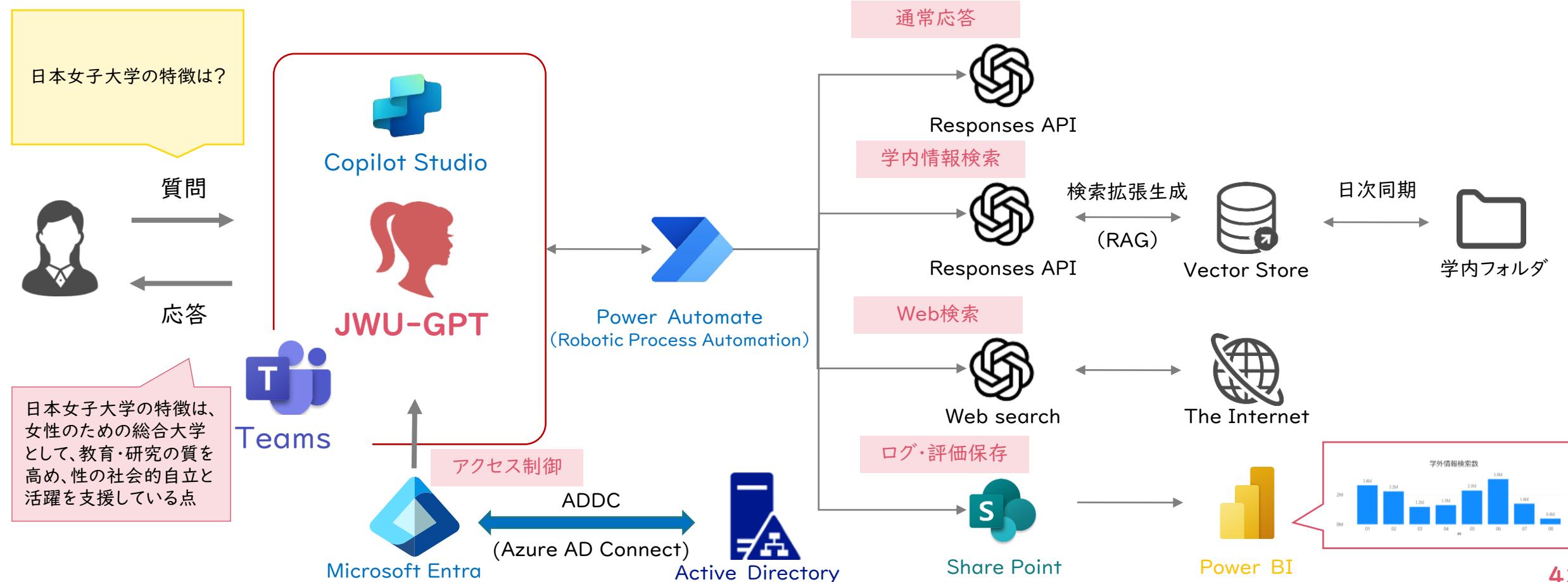
入力した情報がサービス提供事業者の

LLM (Large Language Models、大規模言語モデル) の **学習に利用されるリスク**

生成AI対話サービス (JWU-GPT) を内製で開発

3. 1 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 概要

- 日本女子大学専用の生成AI対話プラットフォーム (JWU-GPT) を2023年度より全教職員に提供
- すでに全教職員に提供されていたTeamsをUIに、OpenAI社のChatGPTのAPI経由で問合せ
- 生成AIの技術動向に応じて、①通常問合せ ②学内情報検索 ③Web検索機能を追加



3. 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 概要

お知らせ 最近行われた更新の中で、以前に非表示にした可能性のある一部のチームが再び表示されるようになっています。表示されないようにする場合、[チーム] ピューから簡単に非表示にすることができます。

JWU-GPT powered by GPT-4o

はい いいえ

JWU-GPT powered by GPT-5 & RAG 11:32

ありがとうございました！
再度、私と会話したい場合は、ボタンを押してください。
ボタンが押せない場合は、次のように入力してください。
(1) 会話を開始 : **gpt** を入力
(2) 学内情報を検索 : **in** を入力
(3) Web情報を検索 : **web** を入力
各機能については[コチラ](#)をご確認ください。

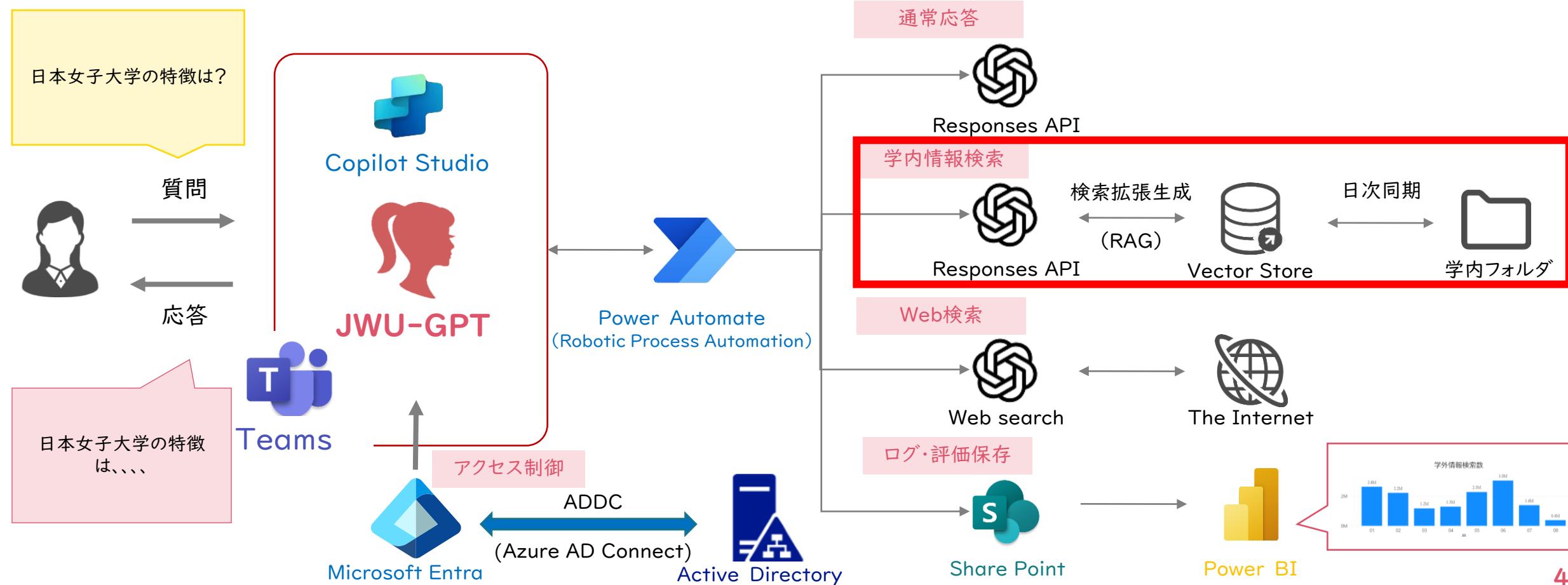
会話を開始 学内情報を検索 Web情報を検索

メッセージを入力

43

3. 1 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 学内情報連携

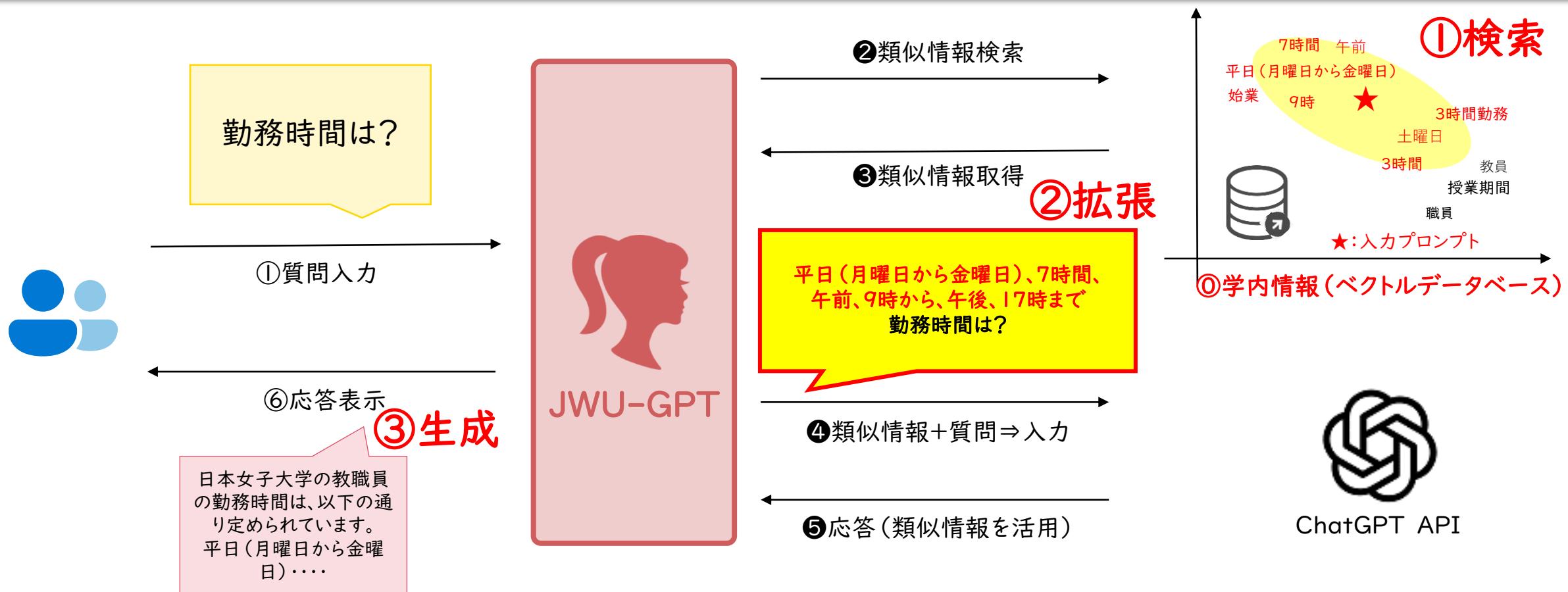
- 学内情報検索機能に伴う、検証と改善を経て全学へリリースした内容をご説明



3. I 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 学内情報連携

- 検索拡張生成 (RAG) では、以下の仕組みにより、学内情報に関して応答が可能になる
 - 事前に学内情報をベクトルデータベース※に格納
 - 入力された質問に対し、ベクトルデータベースから回答になりうる類似情報を検索【①】
 - 質問に類似情報 (回答になりうる情報) を追加 (拡張【②】) をLLMに入力
 - 類似情報を活用し、学内情報に関して回答を生成【③】

※テキストを数値ベクトルで保存するデータベース、単語や文章間の類似度を距離で計算可能となる



3. I 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 学内情報連携

- 学生・教職員からの問合せの一次窓口を想定し、20組織の参画を得て機能評価を行った
- 参画組織は、想定質問を作成し、その質問に対する生成AIの応答に定量評価を実施、その結果に応じて、設定を見直し、再度、定量評価を行い目標値に達するまで繰り返す

参画組織			
法人企画部	学園企画課	教学企画課	広報課
総務課	人事課	経理課	施設課
入試課	研究支援課	学修支援課	学生支援課
キャリア支援課	国際交流課	保健管理センター	通信教育課
生涯学習課	図書館課	成瀬記念館事務室	検収室

計20組織

番項	順手	容内理処	対応組織
①	想定質問例の作成	学内利用を想定した質問例を作成	織組画参
②	データの格納	想定質問に回答するための参考情報を共有フォルダに格納	織組画参
③	応答の自動生成	全想定質問に対して応答を生成	ムテスシ課
④	定量評価の入力	応答内容を5段階で評価 ◎:適切な回答 ○:参考となる回答 △:誤りを含む回答 ▲:参考にならない・誤った回答 ×:問題を含む回答	織組画参
⑤	設定の見直し	評価結果に基づき設定を調整 ・プロンプト ・各種パラメーター ・格納データ	織組画参 ムテスシ課
⑥	再検証	③、④を再度実施	織組画参 ムテスシ課

3. 1 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 学内情報連携

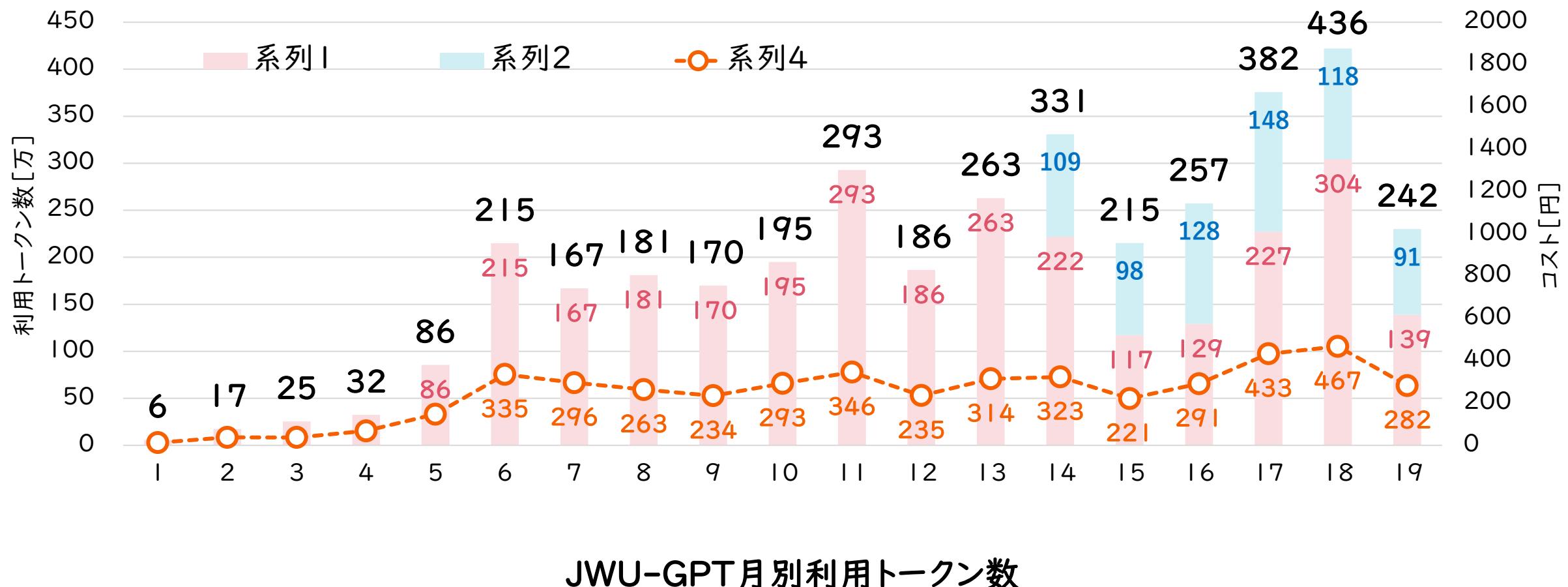
- 学内情報の検索機能のリリースの目標値を「適切な回答(◎)」と「参考となる回答(○)」が全体の80%以上になることと定めた。
- 評価1回目の結果から設定の見直しを行い、評価2回目は評価値が90.3%となり、全教職員への展開を判断した。

	想定質問数 (未評価除く)	適切な回答	参考となる 回答	誤りを含む 回答	参考にならない ・誤った 回答	問題のある 回答
		◎	○	△	▲	×
評価1回目	151	77	39	25	6	4
		51.0%	25.8%	16.6%	4.0%	2.6%
設定の見直し		76.8%		23.2%		
評価2回目	165	95	54	12	2	2
		57.6%	32.7%	7.3%	1.2%	1.2%
		90.3%		9.7%		

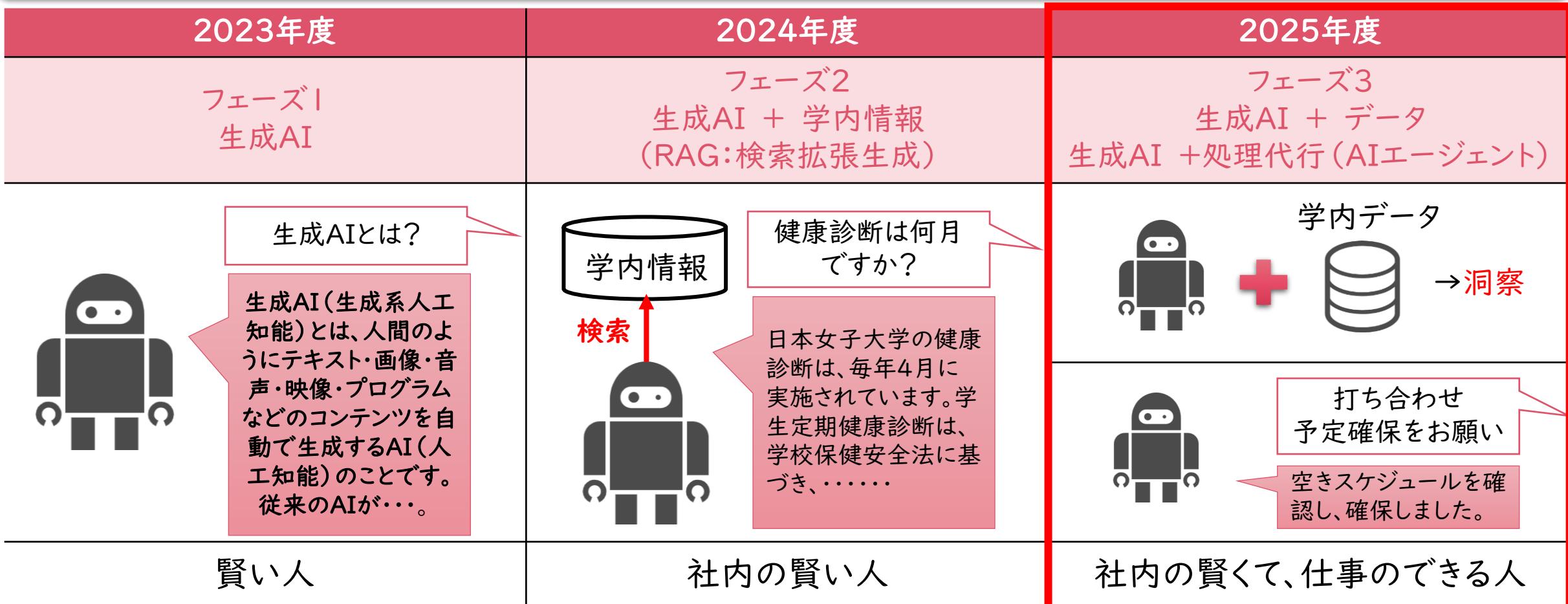
見直し項目	詳細
プロンプト調整 (プロンプトエンジニアリング)	プロンプトに「日本女子大学の学内情報を用いて正確性を重視し答えて下さい。」と追加
temperature調整	1 → 0.5 に変更し、出力の安定性と正確性を重視
回答元データ差し替え	不正確または不足していた情報を更新

3. 1 本学専用生成AIサービス (JWU-GPT) : 利用実績

- JWU-GPTの月別利用トークン数(÷文字数)は、増加傾向にあり、学内情報検索は約100万トークン/月の利用がある状況
- 合計で約4,700万トークンの利用があるが、トータルコストは5,000円程度で、本学の全教職員(1,400名)にサービスを提供できている



- 生成AIを取り巻く環境は進展しており、現在は、生成AIと学内情報の連携から進み、データ連携、処理の代行(AIエージェント)が実業務に適用が検討されている状況
- 本学では、学内情報のみではなく、統合データ基盤が生成AIと連携しており、データ分析業務においては、AIエージェント機能も利用



3.2 生成AIと学内データ連携

The screenshot shows a Microsoft Fabric report titled "report_r2" within the "JWU_IR_master_dataset". The main content is a box plot visualization titled "入試種別 & GPA分布比較" comparing GPA distributions across different admission categories for the years 2012 to 2021. The x-axis represents GPA from 0.00 to 4.00. The data table below the plot provides summary statistics for each category:

番号_入試種別	GPA 総数_02	GPA 最小値_02	GPA 下位25%_02	GPA 中央値_02	GPA 上位25%_02	GPA 最大値_02	GPA 平均値_02
0.00	2.16	2.75	3.21	3.87	2.65		
0.00	2.34	2.77	3.11	3.76	2.66		
0.04	2.44	2.87	3.23	3.92	2.78		
0.00	2.33	2.80	3.15	3.99	2.70		
0.00	2.33	2.80	3.17	3.99	2.69		

The right side of the interface features a Microsoft Copilot sidebar with sections for "Understand the data", "Dig deeper", and "Write a summary". A text input field at the bottom allows users to ask questions about the report, with a note indicating that Copilot uses AI to verify content.

3.3 データ分析業務におけるAIエージェント

The screenshot shows the Microsoft Fabric Power Query editor interface. The top navigation bar includes the Fabric logo, a tab for 'Fabric', and a SharePoint URL. The main toolbar has tabs for 'Power Query' (selected) and 'dataflow', along with various data transformation icons like 'データを取得', 'データの入力', '接続の管理', and '変換'.

The left sidebar contains navigation links: 'ホーム', 'ワークスペース', 'Copilot', 'OneLake カタログ', '監視', 'リアルタイム', '本間_テスト分析', and '...'. The 'Copilot' section on the right is currently active, showing a 'Copilot' icon and a text input field with placeholder text 'からデータを取得する...'. Below it is a 'Copilot' card with the text 'fx 次の手順を追加します。...' and a 'Copilot' icon.

The main workspace displays a Power Query editor window with a table titled 'Table.ExpandTableColumn(#"マージされたクエリ数 2",'. The table has columns: '生涯ID', '学籍番号', '1.2 GPA', '入学学校種別', '番号', '入学学校', and '入学年月日'. The '入学年月日' column is highlighted with a yellow cursor. The 'クエリ' pane on the left shows the query steps: 'report_table' (selected), 'マージ...', 'マージ...', 'マージ...', 'マージ...', and 'gakuen_...'. The 'Copilot' pane on the right provides AI-generated notes: '入学年月日の列から入学年度の列を作成して' and 'AIによって生成されたコンテンツに誤りがある可能性があります。使用する前に、正確で適切であることを確認してください。利用規約の確認'.

At the bottom, the status bar shows '列: 6 行: 99+' and '既定の宛先: lakehouse'. A green '公開' (Publish) button is located in the bottom right corner.

【まとめ】DX創生プラットフォーム



電子出席アプリ
(e-出席カード)



通信教育課程
ポータル更改



電子稟議システム

日付	課題	スケジュール	提出日	点数	評価
2024/03/24	会員登録	午後 16:00-17:00	午後 16:00-17:00	1.00	未提出
2024/03/25	会員登録	午後 16:00-17:00	午後 16:00-17:00	1.00	未提出
2024/03/26	会員登録	午後 16:00-17:00	午後 16:00-17:00	1.00	未提出
2024/03/27	会員登録	午後 16:00-17:00	午後 16:00-17:00	1.00	未提出

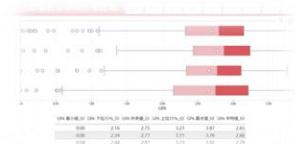
勤怠管理システム



Web出願
入試管理システム



機器セルフレンタルシステム



学園IR強化



図書館システム
クラウド化



人材



キャリア支援
クラウドサービス

通信教育課程
Web出願システム

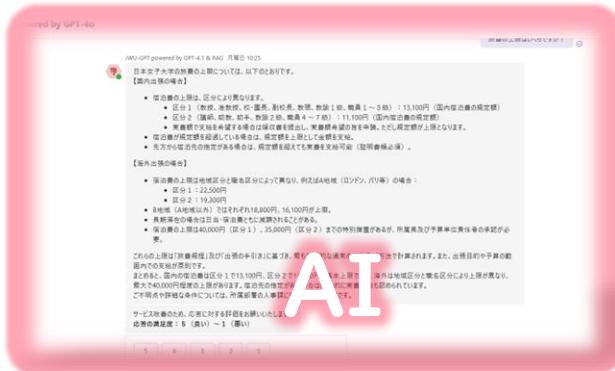
DX創生プラットフォーム



- 各部にDX推進の核となる人材(=DXコア人材)を育成
- ①レベル把握 → ②DXコア人材推薦
→ ③外部研修の受講 → ④実践型問題解決研修
- 人材育成+業務改革+学園風土改革を同時に享受



- DXや学園改革の定量的な根拠となる基盤
- 附属校園を含む学園データの一貫分析が可能
- 学園データをMicrosoft Fabricに集約し、生涯IDを付与
従来、困難であった学園を横断した分析・管理を実現
= フル・エンロールメントマネジメント



- DXの施策立案と実装を加速させるパートナー
- 全教職員が利用可能な本学専用生成AIサービスを提供
- 検索拡張生成(RAG)による学内情報検索にも組織的に対応
- 学内データの連携、処理代行(エージェント)活用にも取り組む

ご清聴ありがとうございました。

日本女子大学はこれからも堅実なDXを推進してまいります。
少しでも皆様のご参考になれば幸いです。